

令和2年度第1回ゼニガタアザラシ科学委員会

議事要旨

令和2年8月6日(木)13:30~15:30

会場:TKP 札幌ビジネスセンター赤レンガ前 5F「チューリップ」

(以下、敬称略)

議事1：令和2年度（2020年度）事業の実施状況について

事務局より資料1「令和元年度モニタリング作業部会に係る議事概要」について説明し、被害防除対策、個体群管理、その他について個別に議論を行った。

(主な意見)

- ・ 混獲・捕獲個体の性比の内訳が分かたら共有してほしい。
- ・ 5月の段階で今年最も沿岸親潮が弱い年だった。えりもの方も水温が高く、6月1日に水深10mのところでも10度前後あり、既にサバが来てもおかしくない状況である。春定置網の設置期間中の水温が非常に高いというのが今年の特徴である。

(今後の方針)

- ・ 混獲・捕獲個体の性比の内訳を共有する。

議事2：令和2年度第1回えりも地域ゼニガタアザラシのモニタリング方法に係る作業部会の検討状況報告について

事務局より資料2-1「令和2年度第1回えりも地域ゼニガタアザラシのモニタリング方法に係る作業部会の検討状況報告について」の説明を行い、音波忌避装置の取扱い、ドローンによる生息数調査の手法確立、漁業被害調査、捕獲幼獣個体数の成獣個体数への換算割合について、個別に議論を行った。

■ドローンによる生息数調査の手法確立について

- ・ 捕獲による個体数調整は、モニタリングとパッケージで初めて管理方式となる。しっかりとモニタリングを行い、対外的にも個体群にリスクが生じないような施策を行っていることを示さなければいけない。ドローンによる生息数調査の手法確立に向けた解析を行い、次回のモニタリング作業部会で報告する。
- ・ 今年は新型コロナウイルス感染拡大の影響で調査ができていない。陸上からの目視調査とドローン調査のデータは多分増えていないので、いつまでに何を出すのか決めるべき。
- ・ 調査時の風速について、襟裳岬は東と西で風の受けが違うので、気象庁のデータはどこで計

測しているのか調べる必要がある。解析ではひとまず現場で取ったデータを使い、風速があまり重要ではないという事になれば気象庁のデータを使ってもよいと思う。

- ・ 風速の測定について、環境省と大学で使用している風速計が機種によりどのくらい測定値が違うのかを調べることも考えられる。

(今後の方針)

- ・ 環境省の調査でも小林委員より借り受けた風速計を使用し、比較する。
- ・ 北門委員の解析結果を見ながら、今後の調査手法の検討も必要に応じて行う。

■ 漁業被害調査について

- ・ アンケート調査は新型コロナウイルス感染拡大の影響も少ないと思うので、進めていただきたい。漁業者がどのくらいの労力であれば被害防除できるのかが、今後重要になってくる。
- ・ 漁業被害の評価方法について、現在のようなデータの出し方では管理計画に反映しづらい。再来年までに調査をするために、今年度中にアンケート調査の設計を終わらせる必要がある。

(今後の方針)

- ・ 次回作業部会でアンケートの設計を提示する。

■ 捕獲幼獣個体数の成獣個体数への換算割合について

- ・ 捕獲幼獣個体数の成獣個体数への換算割合を考えるうえで、幼獣なら何頭捕獲すればいいかということと、将来の個体群の年齢組成への影響はどうなるのかということをそれぞれ検討していく必要がある。
- ・ 捕獲幼獣個体数の成獣個体への換算割合を算出していくことは、科学的にも事業実施上もとても大事であり、次の作業部会で報告できるように作業を行う予定ではある。一方で、個体数調整を行っても被害が変わっていなければ、個体数調整という方針自体を検討し直す必要がある。管理の効果の指標をしっかりと生物学的・経済的な意味を含めて整理する必要がある。

(今後の方針)

- ・ 北門委員の解析結果を見て、今後の捕獲方法の参考とする。
- ・ 管理の指標について、漁業被害調査も含め検討を続ける。

■ その他

(主な意見)

- ・ 昨年と今年とで漁獲物が変わっているので、アザラシの入り方に違いがないか解析してほしい。漏斗式捕獲網の仕様は良いと思うので、秋の捕獲では食害を起こす個体をできるだけ早急に捕獲することに注意して実施してほしい。
- ・ 漏斗式捕獲網の漏斗の長さが短いと、一度漏斗まで進んだアザラシが金庫網に落ちる前に引き返してしまう可能性が高くなるため、長くするようにこれまで指摘してきた。今後気をつけ

てほしい。

- ・ 捕獲網の網目が細かすぎると、水が入って捕獲網が膨らんでしまうため、適度に粗い網目を使った方が良い。
→ある程度網目の粗いものを使用している。(事務局)

(今後の方針)

- ・ 魚種の違いによる、アザラシの捕獲状況の違いについて検証する。
- ・ 秋の定置網における捕獲では、漏斗式捕獲網の漏斗を長くするとともに、編み目は引き続きある程度目の粗いものを使用する。

■音波忌避装置の取扱いについて

また、音波忌避装置の取扱いについては、別途資料2-2「音波忌避装置の今後の取扱いについて」を用いて、詳細な説明を行った。

(主な意見)

- ・ ゼニガタアザラシの保護管理で致死的な対策を進めるからには、非致死的な対策もないと片手落ちである。音波忌避装置の試験を完全に中止してしまうのはどうかと思う。
- ・ もともと音波忌避装置での被害軽減は難しいという話もある中で、ここまで努力したがやはり難しいという判断なので止むを得ないと思う。ただし、非致死的な被害防除として、一定の頭数が捕獲できた段階で、捕獲網に入ったアザラシに対してお仕置きをして放獣するという事を検討してはどうか。
→個体に発信機能をつけて、お仕置きをして放した後に網に入らなくなるか検証をした上で、検討するべきだと思う。
- ・ この音波忌避装置をやることになった経緯はどうなっていたのか。
→音は彼らにとっての重要な情報手段の一つでもある。海外の事例ではその当時多かったのはイルカ避けだったので、環境音や定置網は地域によって違う事も考慮し、アザラシでも検証することになった。
→管理計画策定当時は、やれる事は全部やってみようというスタンスで、海外での技術確立がなされていない中で、日本の定置網に合ったものが作れないかというチャレンジングな対策だった。検証が進まなかったのは事実だが、漁獲が戻った時に効果が期待出来るかもしれないため、一時中断という方針でどうか。
- ・ 漁獲量が少ない時は効果の有無が判断できないのであれば、漁獲量のある所で効果を確かめるのはどうか。(オブザーバー)
→アザラシ対策を実施しているのはえりも地区のみであるため、えりも地区以外については装置を使いたいという申し出があれば、貸し出しを検討する。(事務局)
→音を嫌がることと、被害の軽減になるかは別の問題で、それ以上に魅力的な餌があればアザラシが侵入する可能性がある。
- ・ 海外の研究例でも周波数などの出す音のパターンが変わると、効果が変わると言われている。

どのような音を出しているのかを検証しないと効果があるか言えない。きちんと測定が出来るような環境で実験しないと検証が難しい。

- ・ 北海道立工業技術センターと仁光電機作成の音波忌避装置で、魚に対しての効果を調べたところ、水深 20m の水槽でも指向性があり、効果があるのは非常に短い範囲である。広い海の中で定置網全体に使うのはかなり難しい。アザラシにこのような実験をするのはかなり難しく、いったん中断をするが、魚がたくさん獲れた時に使えるようであれば使ってみることとし、試行錯誤を繰り返していくしかない。
- ・ 作業部会の資料では「超音波忌避装置」と訂正があったが、反映されていない。
- ・ 音波忌避装置を使用するという事について、どのような意思決定がなされて進められたのか、きちんと把握しておかなければならない。水族館も生け簀も定置網も各々状況は違うので、どんな音が一番効いていたのか、科学的な検証をしていない状況で中断というのはおかしい。
- ・ 超音波でも測定器があれば dB で測定可能である。本来きちんとスペックを定めたいうえで進めていくべきであり、どういう音を出しているのか分からないという状況はおかしい。継続困難という判断をするのであれば賛同するが、一時中断して、今後やる可能性があるのであれば、試験方法をきちんと検討したうえでやっていただきたい。
- ・ 科学委員会としては、これまでの経緯等のまとめを受けて、装置の運用の一時中断とする。引き続き、非致命的な手法については検討と情報収集を続けることとしたい。
- ・ カワウの被害の事例でも追い払いなどを行っている。例えば、網揚げの時間以外に船で行ってみたらアザラシは逃げるのかを検証するのはどうか。

(今後の方針)

- ・ 当該音波忌避装置による試験設置は一時中断とするが、導入経緯や当該装置の仕様等について改めて整理のうえ、委員に改めてお示しする。
- ・ 装置の表記としては管理計画に準じ「音波忌避装置」とし、仕様の説明などでは必要に応じて「超音波」と表記するよう整理する。
- ・ 非致命的な被害防止対策について、お仕置き放獣や追い払いなどの音波忌避装置に代わる対策を引き続き情報収集と検討を行う。

議事 3 : 令和 2 年度 (2020 年度) 事業の今後の実施内容について

事務局より資料 3「令和 2 年度 (2020 年度) えりも地域のゼニガタアザラシ管理に関わる取り組みについて」の説明を行った。

(主な意見)

- ・ 捕獲網は「秋定置追加の実施についても計画」とあるが、網を増やす、捕獲網を何か所か入りやすいところに付けていくといった、よりアクティブに活用することを検討してほしい。
- ・ お仕置き放獣をやるのであれば、どういう方法があるかレビューして誰かがオーソライズする必要がある。今秋のサケ定置に実施できるかは疑問である。

- ・ アザラシジステンパーウイルスが太平洋に入ってきたという論文が今年に入ってから出ている。ゼニガタアザラシにとってかなり致死率の高い感染症となるので、今からサーベイランスしておくべきである。次年度以降で予算化も含めて検討いただきたい。

(今後の方針)

- ・ 今秋のサケ定置での追加捕獲や捕獲網のつけ方については、今後漁協と相談しながら、進めていく。
- ・ アザラシジステンパーの調査実施について検討を行う。
- ・ 今後の予定は、第 2 回モニタリング作業部会を 12 月頃、第2回科学委員会を令和3年 1 月頃、保護管理協議会を令和3年 3 月頃に開催を検討している。